KeySQL R8.0 リリース・ノート

2023 年 6 月

目次

動作環境 3
インストール・アンインストールに関して 5
インストール 5
ライセンスキーの登録 5
修正パッチのインストール 6
アンインストール 6
ODAC 18c以降の導入について 6
KeySQL R7.0 からの変更点および互換性について 7
新機能と変更点 7
互換性 8
その他注意点 9
変更履歴 10
2012/11/28 10
2012/12/26 10
2013/04/10 11
2013/05/27 11
2013/11/13 11
2014/01/06 11
2014/02/14 12
2014/04/28 12
2014/05/13 13
2014/05/20 13
2014/12/18 13
2015/02/10 13
2015/04/01 13
2015/07/03 14
2015/10/05 14
2016/03/31 14
2016/07/29 14
2016/08/19 15
2016/09/01 15
2016/12/08 15
2018/02/19 15
2018/04/12 15
2020/02/25 15
2023/05/11 16

動作環境

ソフトウェア

オペレーティングシステム：

Windows XP Professional、Windows Server 2003、Windows Server 2003 R2、Windows Vista Business/Enterprise/Ultimate、Windows Server 2008、Windows 7、Windows Server 2008 R2、Windows 8、Windows Server 2012、Windows 8.1、Windows Server 2012 R2、Windows 10、Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows 11、Windows Server 2022

実行環境：

KeySQL R8.0 のインストールおよび実行には.NET Framework 4 Full 以上が必要です。.NET Framework はマイクロソフトのダウンロードサイトから入手するか、Windows Update（Microsoft Update）を使用してインストールしてください。

ダウンロードサイト：https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=17718
.NET Framework 4 は、以前のバージョンの Framework と共存できます。

データベース：

- Microsoft SQL Server（ODBC）
- Oracle Database（ODP.NET）
- 汎用 ODBC

Oracle への接続には.NET Framework 4 以上に対応した ODP.NET（ODAC 11.2 以上）が必要です。その他のデータベースにアクセスする場合には、各種データベース用のクライアントソフトや ODBC ドライバが必要となります。これらはご利用の OS に依存しますので、対応製品の詳細については各 RDBMS 製品のシステム要件をご確認ください。

アプリケーション：

- Microsoft Excel 2003/2007/2010/2013/2016/2019/2021
  デスクトップ版のみ対応。
  プレインストール版 Office ストアアプリは、「アプリと機能」画面に「Microsoft Office Desktop Apps」と表示があれば、デスクトップ版であり、対応しています。Office 365 もデスクトップ版であれば対応しています。
- OpenOffice.org（Apache OpenOffice）Calc 3.x 以降
- LibreOffice Calc 3.x 以降
- CSV ファイル
- XML ファイル

ハードウェア

メモリ：

オペレーティングシステムやアプリケーション等で使用するメモリとは別に、
KeySQL 用に 64MB 以上の空きメモリ容量が必要（必要な空きメモリ容量は
扱うデータ量に応じて異なります）

ディスク：

20MB 以上の空きハードディスク容量
（使用されるハードディスク容量は設定に応じて異なります）

以上

以前はヘルプ参照のために Internet Explorer, Edge の記載がありましたが、
Internet Explorer, Edge を削除または無効化した環境でも
ヘルプの参照が可能なことが確認できたため、記載を削除しております。

インストール・アンインストールに関して

インストール・アンインストールには Windows の Administrator 権限が必要です。

インストール時のユーザー用か、すべてのユーザー用にインストールするかを選択できます。

インストール

KeySQL R8.0 では、32bit/64bit のインストールモジュールがあります。
環境に合わせて適切なモジュールを使ってインストールしてください。

モジュール	32bit OS	64bit OS
KeySQL(32bit)	ネイティブ環境として動作します。	WOW64 環境での動作となります。 ただし、データベースクライアント（ODP.NET や ODBC ドライバ）は 64bit 用が必要となります。
KeySQL(64bit)	32bit OS に 64bit 用モジュールを使用したインストールはできません。	ネイティブ環境として動作します。

インストーラーファイルをダブルクリックすると、インストールが実行されます。
インストール自体はインストーラーの指示に従って行ってください。

インストール時の注意

接続先データベースとして Oracle をご利用の場合、製品のインストール順序にご注意ください。

各製品は以下の順でインストールする必要があります。

1. .NET Framework 4
2. ODAC (ODP.NET 4)
3. KeySQL 8

もし 1. と 2. が逆になってしまった場合は、以下の順序でインストールしてください。

1. ODAC (ODP.NET 4)のアンインストール
2. .NET Framework 4 のインストール
3. ODAC (ODP.NET 4)の再インストール
4. KeySQL 8 のインストール

ライセンスキーの登録

インストール後、KeySQL を起動して「ヘルプ」メニューの「バージョン情報」から
「ライセンスキーの登録」ボタンを押してライセンスキーの登録をしていただけます。

詳細は KeySQL ヘルプの「画面説明」→「バージョン情報画面」を参照してください。

修正パッチのインストール

インストール方法は初回インストール時と同様です。

インストーラーによってモジュールが上書きされます。

アンインストール

コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」、「プログラムと機能」もしくは、「アプリケーションの追加と削除」から KeySQL を選択し、削除してください。

ODAC 18c 以降の導入について

ODAC 18c より、インストール時に必要な設定が行われなくなったため、ODAC のインストール後に手動で設定を行う必要があります。

1. コマンドプロンプトを管理者権限で開きます
2. cd コマンドで ODAC をインストールしたフォルダの下にある「odp.net¥bin¥4」フォルダに移動します
3. 次の 5 つの OraProvCfg で始まるコマンドを全て実行します
   2 行にまたがっているコマンドは 2 行目の最後までを入力してください

```
OraProvCfg /action:config /product:odp /frameworkversion:v4.0.30319
/providerpath:"Oracle.DataAccess.dll"

OraProvCfg /action:gac /providerpath:"Oracle.DataAccess.dll"

OraProvCfg /action:gac
/providerpath:"..¥..¥PublisherPolicy¥4¥Policy.4.112.Oracle.DataAccess.dll"

OraProvCfg /action:gac
/providerpath:"..¥..¥PublisherPolicy¥4¥Policy.4.121.Oracle.DataAccess.dll"

OraProvCfg /action:gac
/providerpath:"..¥..¥PublisherPolicy¥4¥Policy.4.122.Oracle.DataAccess.dll"
```

KeySQL R7.0 からの変更点および互換性について

新機能と変更点

１）　KeySQL の自動化

VBScript などのスクリプトに対応し、従来の「KeySQL マクロ」よりも
柔軟な処理が可能になりました。

２）　Unicode 対応

Unicode をサポート。CSV/XML 出力時には、各種文字コードでの出力に対応します。

３）　ワークスペース情報の保存機能

ログイン情報も含めたワークスペース情報をファイルに保存します。
ファイルをダブルクリックして KeySQL を起動することもできます。

４）　更新系 SQL の組み立て処理

従来の KeySQL と違い、一度検索をしなくても更新・削除可能です。
検索データをメモリに保持しないため、余計なメモリを使用しません。

５）　取得するテーブル情報のフィルター機能

従来の「テーブルグループ」「オーナーグループ」よりも柔軟に
テーブル・ビュー・シノニムを絞り込むことができます。

６）　より標準 SQL に適した仕様に

画面構成をはじめ、標準 SQL に適した仕様に変更されています。

７）　入力補助機能

テーブル名や関数名の入力を補助する機能が追加されました。

８）　アプリケーション別の設定画面

貼り付け方法などの設定を、貼り付け先アプリケーション別に
GUI で変更可能になりました。

９）　同一マシンに複数のライセンスを登録可能

同一マシン上に検索版と検索/更新版を同居できます。

１０）ネイティブ 64bit に対応

互換性

マクロの互換性について

KeySQL 8 では、作業状態の復元機能として「ワークスペースファイル」、
KeySQL の自動化機能として「スクリプト」機能をサポートします。

KeySQL 7 以前のバージョンで作成されたマクロは「KeySQL マクロ読み込み機能」
により、KeySQL 8 の画面に復元する機能をサポートします。

KeySQL 7 以前のバージョンで作成されるマクロには以下の種類があります。

- KeySQL マクロ（MAC マクロファイル）
  「エグゼキュートモード」を指定せずに作成されたマクロファイル、または
  KeySQL 7 で「名前を付けて保存」「上書き保存」で作成されたファイルです。
- DDE マクロ
  KeySQL R6.2 以前のバージョンで、「エグゼキュートモード」を指定し、
  「ダイレクトコール」を指定しないで作成された VBA です。
- VBA マクロ（ダイレクトコールマクロ）
  - KeySQL R6.2 以前のバージョン：「エグゼキュートモード」および、
    「ダイレクトコール」を指定して作成された VBA です。
  - KeySQL 7：「マクロの種類」を「Excel VBA」に指定して作成した VBA です。
- OooBasic マクロ
  KeySQL 7 で作成された OpenOffice.org Basic です。

KeySQL マクロは、KeySQL 8 のツールバーにある「旧マクロを開く」ボタンからそのまま読み込むことができます。
それ以外のマクロは、KeySQL マクロに変換してから読み込む必要があります。手順については「アプリケーションマクロから KeySQL マクロへの変換手順について」をご覧ください。

「KeySQL マクロ読み込み機能の制限について」も併せてご覧ください。

その他、以下の機能が廃止されています。

- DB2/Informix への専用接続（汎用 ODBC をご利用ください）
- KeySQL Administrator に関する機能
- ローカル別名
- 表結合候補
- 日付書式・範囲設定
- 自動 GROUP BY 設定
- Oracle でのフラッシュバックテーブル機能
- テーブル名の貼り付け機能

その他注意点

- Calc Basic からの Excel への貼り付けについて

  KeySQL 8 では貼り付け先を Excel に指定した Calc Basic スクリプトを
  出力することができますが、OpenOffice.org Basic にて、Excel の
  一部機能を呼び出すことができない現象が確認されています。

  この現象は OpenOffice.org 側の不具合である可能性が高いため、
  この設定により出力されたスクリプトは動作保証いたしかねます。

- 64bit 環境で 32bit アプリケーションからのスクリプト実行について

  64bit の OS に Setup64.msi を使って KeySQL をインストールした場合、
  32bit の Calc や Excel からスクリプトを実行することはできません。

  32bit アプリケーションからのスクリプト実行を可能にするためには
  Setup32.msi を使用して KeySQL をインストールしてください。

- Calc 上の NULL 値「#N/A」をスクリプトで扱う際の動作について

  Calc アプリケーション上では NULL 値が「#N/A」と表示されますが、

  VB スクリプト、または Calc スクリプトで更新しようとすると

  文字列として扱われます。

  そのため、Calc アプリケーションとスクリプトの組み合わせでは
  NULL 値へ更新を行うことはできません。

- Oracle での長い数値の扱いについて

  使用している ODP.NET のバージョンによっては、桁数が大きい数値型を
  検索した際に「指定されたキャストは有効ではありません。」という
  エラーが発生する場合があります。

  ODP.NET 内部で発生している問題であり、KeySQL 側では現状対応が難しいため、
  Oracle 接続時の制限事項となります。

  TO_CHAR 関数にて文字列化するか、ROUND 関数にて桁数を減らすことで回避可能です。

- Oracle ログイン時に ORA-29275 が発生する問題について

  Oracle 接続でログイン時に「ORA-29275 不完全なマルチバイト文字です。」
  というエラーが発生する場合があります。

  これは、以下の条件に当てはまるビューが存在する場合に発生することがあります。

  - 定義文が 4000 バイトを超えている
  - 定義文にマルチバイト文字が使われている

  ODP.NET 内部で発生している問題であり、KeySQL 側では現状対応が難しいため、
  Oracle 接続時の制限事項となります。

  絞り込み設定の「グループ設定」で、原因となっているビューが絞り込み機能の除外
  対象となるよう設定すること、あるいは ODBC 接続に切り替えることで回避可能です。
  （ODBC 接続に切り替えるとシノニムの使用可否等、機能面で制約がかかります）

変更履歴

2012/11/28

1. 絞り込みのグループ設定にプロシージャを追加。
2. ログイン後に反映した絞り込み設定がワークスペースファイルに保存されるように変更。
3. ユーザビリティの改善
   - 各種プレビュー画面や SQL 表示画面を Esc キーで閉じられるように変更。
   - バージョン情報画面や SQL 表示画面を Ctrl+A で全選択できるように変更。
4. テーブル一覧のテーブル・ビュー・シノニムをクリックしたときのレスポンスを改善。

不具合の修正

1. (不具合管理番号 0004289)大きなデータを検索する際に、メモリが不足してエラーになる。
   オプションの項目「一度に貼り付ける行数」を追加しました。
2. (不具合管理番号 0004314)不正な UNION 設定がある状態で、クロス集計をアプリケーションで集計するとクラッシュする。
3. (不具合管理番号 0004360)空の検索条件があるとエラーになる。
4. (不具合管理番号 0004264)インラインビューの設定変更時にシートが既定値になる。
5. (不具合管理番号 0004320)クロス集計の表頭項目でソート設定を変更すると、一部が省略表示されてしまう。

2012/12/26

1. Windows 8/Windows Server 2012 に対応。
2. ユーザビリティの改善
   - 検索条件の入力欄が自動的に広がるように変更。

不具合の修正

1. (不具合管理番号 0004494)複数テーブルの検索プレビューで更新するとクラッシュする。
2. (不具合管理番号 0004503) UROWID 型を更新・追加できない。
3. (不具合管理番号 0004506)更新条件を 2 列目以降にするとスクリプトから更新できない。
4. (不具合管理番号 0004507)「スクリプトに設定を含める」を設定すると更新に失敗する。
5. (不具合管理番号 0004539)クロス集計に同一カラムの集計項目があるとスクリプトを作成できない。
6. (不具合管理番号 0004546)XML 出力のスクリプトでエラーが発生する。
7. (不具合管理番号 0004557)NUMBER 型に NULL が含まれるデータをスクリプトで検索するとエラーが発生する。

2013/04/10

1. Microsoft Access (2003/2007/2010) への汎用 ODBC 接続をサポート。
2. Apache OpenOffice 3.x Calc に対応。
3. ユーザビリティの改善
   - ワークシートを×ボタンで閉じられるように変更。
   - 追加ボタンをクリックすることでワークシートを追加できるように変更。

不具合の修正

1. (不具合管理番号 0003925)環境によって、描画が乱れて一部の画面が表示されなくなる。
2. (不具合管理番号 0004929)オプションの項目「一度に貼り付ける行数」がダイレクト SQL 入力とクロス集計で有効にならない。

2013/05/27

1. ウィンドウのドッキング状態を初期位置へ戻すメニューの追加。

不具合の修正

1. (不具合管理番号 0004180)SQL Server で VBScript を利用した追加・更新が正常に動作しない。
2. (不具合管理番号 0005129)Access に接続している際、連続して複数の表結合を設定すると正常に検索できない。
3. (不具合管理番号 0005130)貼り付け行数指定時に、貼り付け先の指定が反映されない事がある。

2013/11/13

不具合の修正

1. (不具合管理番号 0006079)検索条件設定画面で括弧の前に検索条件が設定されていると正常に検索が行えない。

2014/01/06

1. Windows 8.1 に対応。
2. Oracle Database 12c に対応。
3. Microsoft Excel 2013 をサポート。

2014/02/14

1. LibreOffice 3.x/4.x Calc に対応。
2. ユーザビリティの改善
   - 検索項目の「項目名」を省略表示できる機能を追加。
   - 別名が設定された検索項目を検索条件やソート設定等にドラッグ＆ドロップした際、別名がコピーされるように変更。Ctrl キーを押しながらドロップすれば従来通り項目名がコピーされます。
   - 検索項目へのテーブル追加時のパフォーマンスを向上。
   - 検索項目の「更新する」「更新条件にする」を検索版では非表示にするよう変更。
   - インラインビューのシートにエラーがあるときにメッセージを出すように変更。
   - Excel/Calc からエラーが返ったときのメッセージをわかりやすいように変更。

不具合の修正

1. (不具合管理番号 0004937)クロス集計のソートが反映されない。
2. (不具合管理番号 0006088)特定の操作後に検索項目を削除するとクラッシュする。
3. (不具合管理番号 0006111)「変更されるデータが複数あれば通知」が有効だと、スクリプトでの更新がエラーになる。
4. (不具合管理番号 0006169)Calc Basic マクロの実行確認ダイアログで[OK]ボタンしか表示されない。

2014/04/28

1. Windows Server 2012 R2 に対応。
2. SQL Server 2014 に対応。
3. スクリプトの自動生成画面、アプリケーション設定画面の表示時のパフォーマンスを改善。

不具合の修正

1. (不具合管理番号 0005258)貼り付け時にエラーが発生すると、Excel を操作できなくなる。
2. (不具合管理番号 0006223)クロス集計で貼り付け先セルを指定時に集計が正常に行えない。
3. (不具合管理番号 0006273)ログ設定画面でクラッシュする。
4. (不具合管理番号 0006274)インラインビュー指定が再帰している場合にクラッシュする。
5. (不具合管理番号 0006346)「スクリプトに設定を含める」をオフにしても反映されない。

2014/05/13

1. ユーザビリティの改善
   - コマンドライン上から自動的にライセンス登録出来るようになりました。

2014/05/20

不具合の修正

1. （不具合管理番号 0006496）クロス集計の集計方法「件数」が正常に集計できていない。

2014/12/18

1. SQL ダイレクト入力画面で「端で折り返す」ボタンを追加しました。
2. 接続先「ODBC」または「SQL Server」での SQL 実行時、DB 側のレスポンスが返るまでのタイムアウト時間を、規定の 30 秒から 1 時間（KeySQL 7 以前の仕様）へ変更しました。

不具合の修正

1. （不具合管理番号 0005054）検索プレビューでの更新時にクラッシュする。
2. （不具合管理番号 0006107）スクリプトでオートフィルター設定時にエラーが発生する。
3. （不具合管理番号 0006296）Calc Basic でオートフォーマット時にエラーが発生する。

2015/02/10

不具合の修正

1. （不具合管理番号 0007030）上書きインストールするとスクリプトが動作しなくなる。

2015/04/01

不具合の修正

1. （不具合管理番号 0007210）一部の環境でライセンスキー登録画面を開くことができない。

2015/07/03

不具合の修正

1. （不具合管理番号 0007312）プレビューからの更新時にクラッシュする。

2015/10/05

不具合の修正

1. （不具合管理番号 0007412）検索時にキャンセルボタンが反応しない。
2. （不具合管理番号 0007410）テーブル名貼り付け機能の廃止についてヘルプに記述がない。

2016/03/31

1. Windows 10 に対応。
2. Excel 2016 に対応。
3. 縦幅が狭いディスプレイ向けにワークシートの UI を改善。
4. ライセンス管理画面の UI を改善。
5. その他の細かな改善。

不具合の修正

1. （不具合管理番号 0006529）スクリプトをステップ実行するとエラーになる。
2. （不具合管理番号 0007755）小文字のカラムをカラムプレビューできない。
3. （不具合管理番号 0007798）XML ファイルを生成するスクリプトがエラーになる。
4. （不具合管理番号 0007811）テーブル名に半角英小文字があるとカラム情報が不正になる。
   （SQL Server および ODBC のみ）

2016/07/29

1. SQL Server 2016 に対応。
2. ライセンスキーの非表示機能を追加。
3. トランザクションを常に有効にするオプションを追加。
4. トランザクションの終了時に確認ダイアログを表示するオプションを追加。

不具合の修正

1. （不具合管理番号 0008017）不正な設定ファイルがあるとログインできない。
2. （不具合管理番号 0007977）トランザクション中にテーブル情報を取得できない。
（SQL Server および ODBC のみ）

2016/08/19

1. 単精度浮動小数点の取扱方法変更。

2016/09/01

1. 参照表の自動挿入時に、引用符なしの同一参照表名がすでに存在する場合は追加しないように仕様変更。
この変更により、例えば「SCOTT.emp」（実際には「"SCOTT"."EMP"」として扱われる）が参照表リストにある状態で「"SCOTT"."emp"."ENAME"」を検索項目リストに追加した際、「"SCOTT"."emp"」が参照表リストに追加されなくなります。
2. KeySQL マクロ読み込み機能にて、SELECT 関数の第 5 引数で引用符を無視するように変更。

2016/12/08

1. ワークスペースファイル読み込み時、タイトルバーへ読み込んだワークスペースファイル名を表示するように変更。

2018/02/19

1. Oracle Database 12c に対応。
2. Excel に 1900/1/1～2/28 の日付を貼り付けたときの挙動を KeySQL7 に合わせる。
3. スクリプトから CSV/XML へ出力する際にエンコーディング設定を反映させる。
2. 検索項目の設定数を無制限にする。

2018/04/12

1. Windows Server 2016 に対応。
2. SQL Server 2017 に対応。
3. （不具合管理番号 0009448）ログインユーザーと異なるスキーマのテーブルをクリックした際にエラーが発生することがある。

2020/02/25

1. Windows Server 2019 に対応。
2. Oracle Database 19c に対応。

3. SQL Server 2019 に対応。

不具合の修正

1. (不具合管理番号 0011714)更新スクリプト後に検索すると Excel が 2 つ開くことがある。
2. (不具合管理番号 0007981)クロス集計の結果が 0 行の場合にエラーが発生する。
3. (不具合管理番号 0006277)プレビューのエディットモードでセルの色が変わることがある。
4. (不具合管理番号 0009157)クロス集計設定画面でダブルクリックした項目が消えることがある。

2023/05/11

1. Windows 11 に対応。
2. Windows Server 2022 に対応。
3. SQL Server 2022 に対応。
4. Excel 2021 に対応。
5. 参照表設定から検索項目を入力する機能
   テーブルやインラインビューに属するカラムを一覧表示し、検索項目に設定できる機能を追加しました。
6. DB～アプリケーション間のデータ型の紐づけを表示する機能
   アプリケーション設定画面の「日付書式設定」などに、どの DB データ型に適用されるかがわかるようになる機能を追加しました。
7. プレビューの改善
   1. プレビューのデータを複数選択して検索条件にドラッグアンドドロップすると in 句を設定
   2. 検索プレビューのタイトルバーに検索対象のシート名を表示する
8. 更新ダイアログの改善
   「行数」だけでなく、セル指定で「終了位置」を指定できるようにしたほか、検索→更新の場合にセル位置を入力補完するようにしました。
9. Calc への検索時、存在しないシート名が指定されていれば新規シートが開くように変更
10. インラインビューに別名が設定されていないときは、シート名を別名として使用するよう変更

不具合の修正

1. (不具合管理番号 0009488)テーブル一覧をリフレッシュするとシノニムが表示されなくなる。
2. (不具合管理番号 0011648)クロス集計の集計結果が文字列で貼り付けられる。
3. (不具合管理番号 0013020)検索条件や表結合条件で空行があるとエラーになることがある。